

## 旅 アト

世界の課題や取り組み事例について調べてみよう。

- 公害が起きた国の事例
- 先進国や発展途上国の公害の現状

身近な課題や取り組み事例について調べてみよう。

- 自分たちの地域での環境保全の取り組みなど
- 水質汚濁や土壌汚染の原因や対策など

SDGsゴールを自分の言葉で訳してみよう。

-  **Peace, Justice and Strong Institutions**  
Promote peaceful and inclusive societies for sustainable development, provide access to justice for all and build effective, accountable and inclusive institutions at all levels

〈参考：外務省訳〉「平和と公正をすべての人に」  
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

富山市の事例をもとに地域や世界に対して、自分でできることを考えてみよう。

都市の理想を、富山から。



# 公害の教訓から持続可能な社会づくり考える 富山県立イタイイタイ病資料館

Sustainable Development Goals



◎公害を二度と繰り返さず  
美しく豊かな環境を守る



●産業により汚染された環境が  
人々の健康被害を引き起こした



イタイイタイ病は、富山県の神通川流域で起きた日本の四大公害病の一つで、患者が「イタイ、イタイ」と泣き叫ぶことからこの名がついた言われています。

この病気は、大正時代頃から発生し、神岡鉱山（岐阜県飛騨市）から排出されたカドミウムが神通川の水や流域を汚染し、この川水や汚染された農地に実った米などを通じて体内に入ることによって引き起こされました。

患者はもちろん、その家族や地元の住民たちもつらく苦しい日々が長い間続きました。裁判では住民側が勝訴しましたが、患者救済や健康調査は今なお行われています。汚染された環境については、被害者団体、原因企業、行政などの関係者の被害克服に向けた長年の努力によって、今では美しい水と大地がよみがえっています。

富山県立イタイイタイ病資料館の見学や語り部の講話から、イタイイタイ病の恐ろしさやその克服の歴史を学び、イタイイタイ病のような公害が二度と起きないようにするにはどうすればよいか考えます。

## 旅 マエ

考えてみよう。調べてみよう。わからないことを書き出してみよう。

- 日本の四大公害病について
- 公害病の患者やその家族の人権について



### イタイタイ病の発生と被害の実態

古くから穀倉地帯となっていた神通川流域では、大正時代頃から全身が激しく痛み、骨がもろくなって簡単に折れてしまう原因不明の病気が現れはじめます。

この病気は、一度かかると治らない“奇病”として流域住民に恐れられ、あまりの痛さに耐えられず、患者が「イタイ、イタイ」と泣き叫ぶことからイタイタイ病と呼ばれるようになりました。被害者は患者だけにとどまらず、その家族や地域住民にまで深刻な影響を及ぼしました。

### 原因究明、健康と暮らしを守る動き

イタイタイ病の原因については諸説が発表されましたが、長い間苦しんできた住民たちは、神岡鉱山から排出されたカドミウムが原因であるとして、健康被害の解決を求めて1968(昭和43)年に裁判を起こしました。

同年8月厚生省(現厚生労働省)の見解が示されたこともあり、裁判は、1971(昭和46)年の1審で、全国の公害病関係裁判ではじめて、被害者である住民側が勝訴しました。さらに2審でも1972(昭和47)年、住民側が全面勝訴し、原因究明を巡る争いに終止符が打たれました。

その後直ちに、住民側と原因企業が被害者への賠償のほか、公害防止や汚染土壌の復元に関する3つの誓約書・協定書を取り交わし、患者救済や環境の復元に向けた動きがはじまることになりました。



完全勝利に喜びの万歳をする支援団体の人たち(北日本新聞社提供)

#### ●イタイタイ病とカドミウム

厚生省(現厚生労働省)の見解では、イタイタイ病は、カドミウムの慢性中毒によって、まず腎臓に障害が発生し、次に骨軟化症を引き起こすものというものです。まだ解明されていない部分がありますが、腎障害と骨障害、なかでも骨粗しょう症を伴う骨軟化症はイタイタイ病の大きな特徴です。

イタイタイ病に認定された患者は、2021(令和3)年末で200名となっています。

### 1階/展示室

昔の暮らし、被害の発生から現在までの動きを時間の流れに沿って紹介します。

#### ⑥環境・エネルギー先端県の実現を目指して

環境と健康を大切にする行動のヒントとなる最新の環境施策などを紹介します。

#### ●エントランス

床面の水系図や神通川の大型イメージ写真で皆さんを展示室へ誘います。



### 流域住民の健康を守り、患者を救う

富山県では、法制度が整う以前から被害者への公費による医療救済を行うなど、患者を救う取り組みを進めてきています。現在も、患者の認定を行うとともに、毎年、流域住民の健康調査を実施し、健康管理に努めています。

また、1960(昭和35)年頃から住民の要望を受け水道が整備されるようになりました。

### 環境被害対策

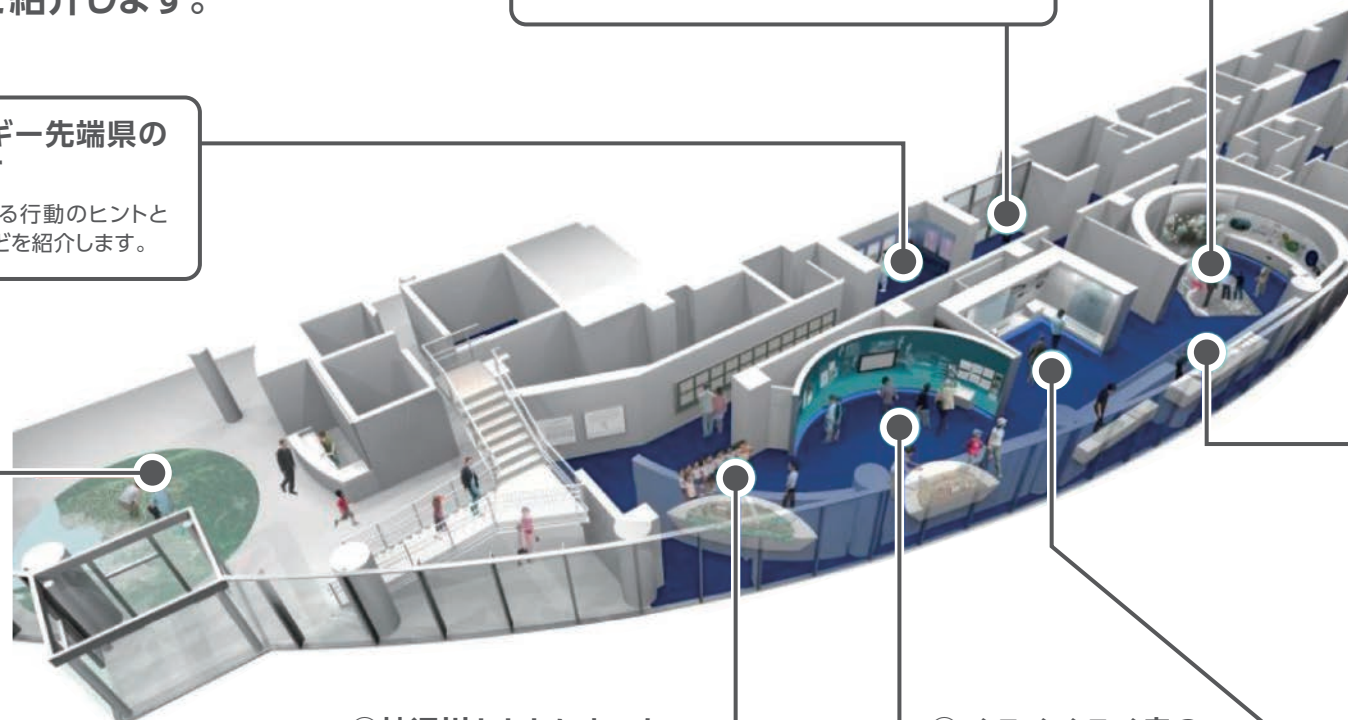
イタイタイ病裁判後、住民や専門家からなる調査団の神岡鉱山への立入調査などの『発生源対策』が、1972(昭和47)年以来、毎年続けられ、原因企業も調査結果を踏まえ、精力的に改善に取り組んでいます。

また、汚染された水田の土壌復元工事などの『汚染農地対策』については、対策地域が1686.2ヘクタールにも及ぶ広大なものでしたが、2012(平成24)年3月までに対策地域の工事を終了しました。

### 富山県立イタイタイ病資料館 館内の案内

#### ●メッセージコーナー

年表でイタイタイ病の歴史をふり振り返りながら、展示で感じたことをメッセージとして残します。



#### ①神通川とともにあった暮らしの原風景



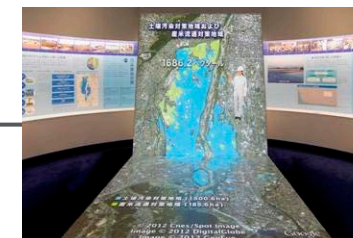
かつて神通川流域で川の水を利用して生活していた頃の暮らしをふり振り返ります。

#### ②イタイタイ病の発生と被害の実態



稲の生育不良などの異変、原因不明の病気にかかった患者や家族の苦しみをたどります。

#### ⑤美しい水と大地を取り戻してきた環境被害対策



汚染された神通川や農地を元の美しい姿に戻してきた努力や成果などを紹介します。

#### ④流域住民の健康を守り、患者を救う



患者認定の流れや条件、流域住民の健康調査の実施状況等をわかりやすく伝えます。

#### ③原因究明、健康と暮らしを守る動き



原因究明、被害住民による裁判から原因企業との取り決めに至る歴史を紹介합니다。

✍️ 気になったことを書いてみよう。